



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



Developed by Brainworx and distributed by Universal Audio.





bx_masterdesk

プラグインマニュアル



bx_masterdeskの開発者、 Dirk Ulrichhからのメッセージ:

親愛なる皆様へ、

みなさんのコンピュータでプロフェッショナルなマスタリングを行うためのアナログスタイルのソリューションとしてbx_masterdeskを開発しました。20年以上に渡るオーディオプロダクションとマスタリングの経験から、私は多くの音楽スタイルに適用できる多くの基本的な原則を学びました。この新しいプラグインは、GUIの後ろに多くのプロセッサーをチューニングして配置しています、あなたは音楽に集中して取り組んでください。

bx_masterdeskを使用することで、熟練したマスタリングエンジニアでなくても適切なLOUDネスでプロフェッショナルなサウンドのマスターを提供できるクリエイティブでありながら楽しめるツールを提供しようと考えました。過去の経験から、満足のいくサウンドのミックスを行ってから、フィニッシュラインの最後の段階でそれを損なうことなく完成させるまでにイライラすることがあります。さて、マスタリングプロセスとはどんなものでしょうか？

bx_masterdeskで楽しむ方法とは？

さて、マスタリングプロセスは“戦い”であるとも言えます。大物アーティストのプロダクションのようにミックス内でボーカルを際立たせ、スムーズなローエンドを損なうことなく、より多くの情報量をキープしたまま、耳障りな部分や歪みを取り除きます。

どのようにすれば良いか？

私は、Brainworxチームと部のマスタリングエキスパートが協力して、オリジナルで作成したオーディオチェーンがお客様のミックスで使用しても満足して頂けることを確認しました。Brainworxは、素晴らしいアナログ機材をコンピュータ上に再現するという点で評価されている企業の1つです。特にbx_masterdeskのアナログ・ダイナミックアルゴリズムは、ボリュームを調整することで、ダイナミックレンジVUメーターがCDやストリーミングに必要なレベルに達するまでチェーンのシグナルをドライブさせることができます。LOUDネスをプロのレンジにまで引き上げ、それをさらに快適に聴くことができるようマスターにEQを適用することも可能です。これらの操作をするために専門的な技術は必要ありません。あらゆるレベルのミュージシャンにとって、わかりやすいようにラベル付けされ、簡単に楽しく操作できるように設計されています。





bx_masterdesk

プラグインマニュアル



bx_masterdeskは、シリアスでプロフェッショナルなソリューションであることを間違えないでください。プロのエンジニアの手には、マスタリングチェーンに必要なプロセッサプラグインであるかもしれませんが、同時に野心的なミュージシャンによっても素晴らしいサウンドが得られるように簡単なコントロールレイアウトを採用しています。そしてプレイリスト上にあるプロのプレイリストにあるプロダクションと比べられるという信念を持つて行うことは喜ばしいことです。

商業用のプロフェッショナルマスターをCDプレス工場やストリーミングサービスに提供したい場合は、マスタリングとリファレンスミックスなどを比較するための特別なメーターやA/Bリスニングツールをお勧めします。bx_masterdeskはレコーディングしたサウンドを簡単にシェイプしてプロフェッショナルレベルにするために使いやすいツールですが、純粋なサウンドプロセッサに加えてプロのマスタリングスタジオで使用するような高価な機能を追加しようとは思いませんでした。

bx_masterdeskはシンプルすぎるように見えますか？

私は、プラグインフォーマットやオンラインのマスタリングサービスを使用した現代的なソリューションの多くが、あなたの代わりに仕事してくれるバーチャルアシスタントや人工知能を提供していることを知っています。しかし、私の心の中では、多くの人がマスタリングプロセスについて思いを巡らせており、それについて自分で仕事ができるようにするためのツールを提供して助けることはできないか？と考えました。

bx_masterdeskでマスタリングするには、、、1、2、3段階くらいです。

1. ボリュームノブを上げる。
2. マスターの基礎を作る。
3. トーンスタックを調整する。

他のすべてはオプションです。私は、あなたのためにこのツールを作成しmbx_masterdeskを使って最終的な結果を喜んでいただけると確信しています。この新しいツールを楽しんでください。そして、あなたが作った作品を耳にできる日を楽しみにしています。オンラインリリースをする場合には、タグ(#brainworx #masterdesk)を付けてください！

ミックス、マスタリングを楽しんでください！

Dirk Ulrich

Brainworx創設者、bx_masterdesk設計者



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



クイックチュートリアル

- 1 音楽を再生してボリュームを上げ、必要に応じてダイナミックレンジVUメーターを8dBから6dBの間に設定してください。ダイナミックレンジ(DR)が6dBの場合、大音量のCDマスターになりますが、DRが8dBの場合、YouTube、Tidalなどのストリーミングサービスに使用するための素晴らしいサウンドマスターになるでしょう。ボリュームノブを使用してミックスをサーキット内に入力すると、自動的にコンプレッションされます。DR VUメーターのレベルが適正に設定されるとプラグインのゲインステージが自動的に最適化されるので、良い結果が得られます。
- 2 好みの位置にダイヤルしてください(マスターを作成する上での基礎になります)。
- 3 その後、ギターアンプと似たトーンスタック(ベース、ミッド、トレブル、プレゼンス)を調整してください。
- 4 THD、M/Sモノメーカー、ステレオエンハンスを調整することができます(が、その必要はありません)、4種類の異なるコンプレッサー設定(GUIでは1/2/3/4と表示)から選択可能です。1が最も強くかかり、4が穏やかな設定になっています。これらの設定では、様々なTMTチャンネル(特許出願中のトーランスモデリング技術)も使用可能なため、様々なアナログチャンネルとマスタリングデスクを介して切り替えるようなことが可能です。

- 5 コンプレッサーのステレオリンクをオン/オフすることができ、リミッター用の“ターボモード”(L&Tとラベリングされたボタン)も使用可能です。しかし、最初は両方をオフのままにしておくことをお勧めします。(リンクしていないダイナミクスを使用する方法ですが、リミッターターボは、クラブミュージックやヘビーメタルのミックス、またラウドなハイコンプレッションサウンドなどを作成する場合に有効です。)
- 6 低域用と高域用に分かれた2種類のレゾナンスフィルターがあり、それぞれの周波数は選択可能です。この機能により可聴域をクリーンにし、ローエンドを加えたり、シンセやギターのサウンドを整えることができます。
- 7 コンプレッションミックスは、パラレルコンプレッションを行うためにミックス値を85%~100%の間で調整することができます。これは、オリジナルのダイナミクスをミックスに残すためにマスタリングの際によく使用される方法です。
- 8 マスタリングディエッサー(高周波数リミッター)を内蔵しており、ミックス内のシビランスやシンバルの耳障りな成分を取り除くことができます。
- 9 ミックスがお好みのサウンドになり、バランスが取れていると、約8~6dBを示している場合、プロマスターとして不愉快になるサウンドを出すことはありません。トーンスタックやファウンデーションの設定は、幅広いので、ミックスを台無しにしてしまうようなことはありません。

bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 ボリューム

ボリュームコントロールを使用して、音楽がどのくらいの強さでbx_masterdeskのプロセッシングチェーンに激しく入力されるかを調整します。ラウドネスを調整しながら、ダイナミックレンジVUメーターを見て、ダイナミックレンジを8dB（ストリーミングサービスで配信する場合の目安）から6dB（大音量のCDマスターの場合）の範囲に設定してください。

マスターとリファレンストラックを比較して必要に応じてプロフェッショナルメーターとA/Bリスニングツールを使用してください。過度に大音量に設定すると音楽の忠実度が損なわれるので、あまりに大音量の設定は良いアイデアとは言えません。ダイナミックレンジが最大6dB、または5.5dBのものは、ほとんどのジャンルの音楽やミックスで聴きづらくなるでしょう。そしてYoutubeやTidalのようなストリーミングサービスでは、規格外となる可能性があります。

Metallicaのアルバム Death Magneticのミックスとマスタリングが大音量過ぎたので、iTunesのために最新のラウドネスアルゴリズムを使用して12dBほど下げることになりました！作成したマスターがどれくらい引き下げられるかをチェックしてくれるオンラインサービスがあります（これらのサービスのほとんどは無料です）。“Loudness Penalty”やそれと同じようなサービスでチェックするのは良いアイデアです。

2 ファウンデーション

ファウンデーションコントロールを使用すると、ミックスの全体的な調整（ローエンドvsトレブル）し、マスターを構築するための低域の基礎の設定が可能です。値を大きくするほど、低域が重厚となり、ほとんどのジャンルで低域が重いサウンドになります。

3 コンプレックス

このノブは、コンプレッションされた信号とオリジナルの信号のブレンドを調整します。ミックス値が100%の場合、コンプレッションされた信号のみを出力しますが、生き生きとしたマスターを作成したい場合、93%の設定を推奨します。ノブを左いっぱいに戻すと、コンプレッサーは効かなくなります。（コンプレッサーがオフ）

4 ディエッサー

マスタリングディエッサーはプロセッシングチェーンの最後にあり、マスターのシンバルを激しく叩いているサウンドを落ち着かせるために最適です。ボリュームを上げていくと、ミックスに埋もれていた違和感が聴こえるようになります。bx_masterdeskを使って綺麗なプレゼンスを調整する際にマスターのサウンドが激しくなり過ぎないような値が望ましいようです。ディエッサーはそういう場合に適したツールと言えます。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 コンプレッサーリンク

リンクしたコンプレッサーは、ミックスの左チャンネル、または右チャンネルのどちらかにスレッシュホールドを越えるピークがある度にコンプレッションを行います。これは、理論的にはステレオイメージがより均等になりますが、ポンピングを大きくする可能性があります。その理由は、L/Rチャンネルのいずれかのレベルの短いピークが両方のチャンネルの全体的なゲインを減衰し、それは1つだけのチャンネルの短いリダクションよりもより聴こえやすくなります。マスターバスの短期間のレベル低下は、音楽にとって望ましくないポンピングを起こすこととなります。我々は、マスタリングする際にこれを回避することを考えています。

bx_masterdeskでは、(TMTコンプレッサーモードの設定に応じてリリースタイムを10ms~13ms設定可能な)高速のコンプレッサーを使用可能です。ノイズを生成することなく大音量でクリアなマスターを作成する最善の方法は、コンプレッサーのリンクを解除することです。これはbx_masterdeskのデフォルト設定です。リンク機能をオフのままにすることをお勧めします。

アンリンクモードでは、コンプレッサーはレフトチャンネルとライトチャンネルのピークを個別に検出し、ピークが存在する場合は、各チャンネルの音量を個別に下げます。

場合によっては、リンクしていないコンプレッサーがL/Rチャンネルに反応し過ぎて、L/Rチャンネルのバランスが崩れる可能性があります。これは、ピークが多く含まれていないシンセパッドやブーミーなピアノの音色で起こる場合があります。例としては、EDMTトラックのクライマックス前のブレイクダウン・パートでパッドやリバーブ成分が多く、ビートが無い場合が挙げられます。

このような場合はリンクモードでコンプレッサーをお勧めします。他のほとんどの使用状況では、アンリンクモードの方が良い結果が得られますが、必要に応じてミックスの特定の部分でリンク/アンリンクモードをオートメーションで切り替えることをお勧めします。Brainworxツールを使用するとプラグインのすべてのパラメーターをオートメーション化し、A/B/C/Dセッティング機能で様々なバリエーションを保存することができます。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



2 リミッターターボ

シグナルは、プロセッシングチェーンの最後にプロフェッショナルリミッターを通りますが、内部リミッターは、1dBのデフォルトブーストに設定されています。ターボモードを使用するとブーストが2dBに増加します。これはEDMやヘビーメタルのような特定のジャンルの音楽には望ましいかもしれませんが、あまりにもラウドになり過ぎるため、ストリーミングサービスを利用する場合にはあまり必要ないかもしれません。

ターボモードを使用すると出力レベルは自動的に-0.2dBに下がります。出力ノブを0dBに戻すことで設定を上書きすることができますが、ターボモードで使用中は-0.2dBで使用することをお勧めします。これは多くのマスタリングエンジニアの共通の習慣であると言えます。

3 TMTコンプレッサー

bx_masterdeskは、4種類のコンプレッサーとTMTセッティングを提供しています。TMTは、当初bx_consoleプラグインで発見された特許出願中のトーランスモデリング技術です。オーディオ回路に含まれるコンポーネントの現実世界との許容誤差を考慮し、周波数レスポンス、ダイナミックセクションのコンスタンスなど現実的な差異を持つアナログオーディオの様々なチャンネルを提供します。詳細については、www.brainworx.audio でbx_consoleプラグインに関する情報をご覧ください。

bx_masterdeskでは、4つのモード(1 - 2 - 3 - 4)を切り替えると、同じハードウェアの異なるインスタンスを切り替えて使用するようなアナログモデリングされた4種類の異なるステレオチャンネルセットが得られます。同時にこれらのチャンネルは、異なるコンプレッションキャラクターを提供します。1はもっともハードなコンプレッションで4はもっとも穏やかなコンプレッションです。音楽を再生しながら設定を切替え、一番心地よいものを選択してください。

4つのモードすべてでコンプレッサーミックス・ノブを使用したパラレルコンプレッションが可能です。デフォルトのミックスセッティングを93%から始めることをお勧めします。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 THD

THD (Total Harmonic Distortion)は、すべてのアナログオーディオ機器に存在する歪みの一種で、音楽にまとまりを与え、耳に心地の良いサウンドを提供します。

THDを使用すると、自然な方法で音楽のトランジェントを調整し、コンプレッサーの作業量を減らすことができます。THD値が高くなると、より明るく聞こえる“張り付くような”ようなサウンドが得られます。bx_masterdeskで利用可能なTHDは、ギターアンプの代わりになるほどの量が必要ではないため、マスターにとって適正な量に制限されています。

デフォルト設定では、-60dBですが、必要に応じて高く設定することができます。モダンなポップス、ロック/メタルなどではローエンドの設定を約-45dBに設定し、ミックスを心地よくまとめるとともに、信号をコンプレッサーやリミッターに強く当てることなくマスターの音量を少し下げます。この方法はお好きですか？

2 アウトプットリム

このコントロールは、オーディオチェインの最後の段階で0dBよりわずかに低い値に達するマスターをエクスポートするために使用することができます。クリッピングなどの安全上のために、マスターを-0.2dBで提供するのが一般的です。

3 ディエッサーソロ

ディエッサーソロを使用すると、bx_masterdeskがディエッサーで取り除いた部分のみを確認することができます。

4 メータータイプ

メーターの表示をインプットとアウトプットに切り替えることができます。DR (ダイナミックレンジ)ではコンプレッションする前と後で出力信号が変化するかを表示します。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 ベース

トーンスタックを使用してレコーディング全体のサウンドを好みに合わせて調整可能です。そして、好みのマスタリングに似た音楽のリファレンスミックスを用意し、同じようなサウンドを作成するようにしてみてください。ロックをマスターしたい場合、Foo FightersなどのプロフェッショナルのCDをリファレンスにすることをお勧めします。ポップソングをミックスする場合は、RihannaなどのCDと比較すると良いかもしれません。

ベースコントロールを使用すると、低域スペクトルの特定の周波数をブースト、またはカットすることで音楽のローエンドをよりソフトにしたり、タイトにすることができます。

値-30 ~ +30は、-3dB ~ +3dBの範囲を表し、最大の設定でも非現実的なEQになることはありません。

2 ミッド

ミッドコントロールでは、ボーカルと楽器のサウンドの多くの情報があり、ブーストしてエネルギーを増し、カットすることでソフトにすることができます。

値-30 ~ +30は、-3dB ~ +3dBの範囲を表し、最大の設定でも非現実的なEQになることはありません。

3 トレブル

トレブルを加えると、実際にボリュームを上げなくても知覚的なボリュームを上げることができます。あまりアグレッシブな設定をするよりも繊細なタッチを行う方が音楽をより際立たせることができます。

値-30 ~ +30は、-3dB ~ +3dBの範囲を表し、最大の設定でも非現実的なEQになることはありません。

4 プレゼンス

プレゼンスは、もっとも高い周波数スペクトラムをコントロールします。このコントロールを使用して心地よい高周波数をブーストし、耳障りな発音音域を減らすことも可能です。プレゼンスを調整してシンバルやハイハットを聴きながらスムーズに聴こえるようにしてください。

値-30 ~ +30は、-6dB ~ +6dBの範囲を表し、最大の設定でも非現実的なEQになることはありません。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 モノメーカー

Brainworxシリーズのプロセッサーの定番であるモノメーカーは、20Hzから選択したカットオフフリークエンシーまでの間のステレオレコーディングしたサウンドをモノにします。クラブやサブウーファースystem（車内やホームシアターなど）で再生するとサウンドが大幅に強化されます。

モノメーカーを高音域で使用すると、ギターやシンセのステレオ幅が狭くなりますが、約100Hzの設定では音楽に悪影響を及ぼすことはありません。モノメーカーは、ステレオ情報を切り離れたものを補う巧妙なアルゴリズムなので、モノメーカーを使用しても何も失うことはありません。

実際、モノメーカーを使用すると、音楽はローエンドでより強くヒットさせることができます。バスドラムやベースが強調されるでしょう。

2 ステレオエンハンス

多くのBrainworxプラグインとは異なり、これは単純なM/S幅コントロールではありません。

その代わり、ステレオフィールド内の楽器を目指し、巧みにオートメーションされたEQシステムでそれらを強調します。ステレオエンハンスを使用するとドラムのブーミーなルームサウンドをブーストしたり、リバーブテイルの濁った部分を抑えて、シンセやギターをブーストさせる幅を作ることができます。

ステレオエンハンスは新しいBrainworxのデザインで、我々が知っている幅と奥行きを増やすもっとも音楽的な方法です。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 ローレゾナンスフィルター

Brainworxのレゾナンスフィルターは、ミックス内に多く存在する問題のある周波数レンジを調整することができます。

低域フィルターを使用してミックス内のボトムをクリーンにし、低域をよりソフトにすることができます。これにより、ローエンドに鮮明なアクセントを与えることができ、激しいコンプレッションをされたマスターでも明確なキックを取り戻すことができます。2つの設定の中から純粋にミックスの中でより良い音がする方を選択してください。

2 オートソロ

LEDをオンにし、周波数ノブを左、または右の位置にクリック/ホールドすることでオートソロをオンにすると、過剰に強調され、除去を必要とする可能性のあるマスター内の要素を確認することができます。

これらの周波数範囲をソロにしたときに耳障りに感じた場合、レゾナンスフィルターを使用する必要があります。ソロを使わず全体を聞いて、フィルターがマスターを改善できていることを確認してください。

3 ハイレゾナンスフィルター

ハイレゾナンスフィルターを使用すると、マスターの不快感を取り除き、インストゥルメント内で過度に強調されている部分や耳障りな周波数を取り除くことができます。

多くのロックミックスは、3kHz付近に多くの情報があり、マスターの音量を上げるとさらにアグレッシブになりがちです。多くの明るいシンセサウンドやボーカルが存在する場合、6kHz付近に同じことが起こります。

決められたルールはありません。ただ2つの周波数をチェックしてその中の1つがサウンドを改善できるかどうか確認してください。

ほとんどのマスターは、ローレゾナンスフィルター（160Hz、または315Hz、上記を参照）のどちらかの周波数を使用することで対処が可能です。ハイレゾナンスフィルターが本当にマスターを改善するかどうかは、確認しながら調整することをお勧めします。他にトーンスタックのミッドとプレゼンスの設定を調整した方が良い結果が得られる場合もあります。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 ダイナミックレンジ

ダイナミックレンジは、簡単な言葉でいうと音楽のピークとボディの違いです。ミックスとマスターのピークが高いほどダイナミックレンジが広がり、“ラウド”が小さくなります。多くの人は、マスターで(より小さい密度とラウドネス)でダイナミックレンジを増やすことが望ましいと信じています。

特定のジャンルの音楽は、特にCDのリリースのために“ラウドな”マスターを求めています、誰もが歪んだマスターを聴きたいとは思っていません。

マスターをCDリリース用にラウドにするには、(必要な場合)オンボードのコンプレッサーやリミッターを使用して音量を上げる必要があります。しかし、これは最終的にピークがミックスを削がれる結果になります。マスターをハードディスクにバウンスした場合、ファイルの波形は、ソーセージ(や海苔)のようにまっすぐになります。

どのようなミックスやマスターを好むかに関してルールはありませんが、あまりにラウドな音楽はリスナーにとって心地の良い音とならず、耳を疲れさせる原因となります。

プロのヒント:

ダイナミックレンジを約8dB(ストリーミング用)から6dB(ラウドなCD用)にすることをお勧めします。すべてのミックスが異なるので、この数字がすべてだと思わないでください。これらの値は、目安になりますし、iTunesの曲を-4dBのDRでマスタリングするのは難しいでしょう。その場合、iTunesではほぼ12(!)dBになります。

多くのラジオ局やストリーミングサービスでは、マスターのラウドネスを“時間の経過とともに”計測しています。つまり、マスターは一定の基準を満たしてボリュームを下げなければなりません。

専門のCDプレス、放送、ストリーミング用の音楽を配信する場合は、bx_masterdeskの後ろにインサートした専用のメーターとA/Bリスニングツールを使用してください。このケースでは、マスタリングチェーンの最終段階として、サンプル間ピークリミッターとディザリングプラグインを加えることも考えられます。

これらが技術的過ぎると感じ、楽しく音楽制作をしたいと思っている場合、このすべてを無視してbx_masterdeskを唯一のマスタリング技術の源として楽しむことができます。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 レベルメーター/ DR VUメーター

画面中央にあるVUメーターは、Brainworxのオリジナルで、bx_masterdeskで調整した設定がどの程度“ラウド”になっているかをしめすためにゆっくりと動く針で表示されます。これにより、音楽のピークとボディの差を測ることができます。

マスタリングエンジニアは、レコーディングのEQを念頭に置くだけでなく、そのレコーディングが他の音楽と一緒にプレイリスト上にある可能性を考え、その場合にラウドネス/ボリューム面が他の曲と合っていることを確認してください。残念なことです、これを測る簡単な方法はなく、現在でも異なる基準があるのが現実です。

DR VUメーターをモニタリングし、それに応じてボリュームやトーンの設定を調整することができることは、マスタリングを行う際にもっとも重要な要素の1つと言えます。

グリーンゾーンを目指すと、あなたの曲は“ラウドネスの基準”内に入ります。

ほとんどのストリーミングサービスではより高いDR値を期待し、それがあまりに高い場合、音楽が止まります。したがってこれらのストリーミングサービスのために当社のメーターで8dB ~ 7dBを示すマスターの作成を目指すの良いでしょう。

ラウドなCDマスターを作成したい場合、ボリュームをさらに上げ、6dBのDRをを目指すの良いでしょう。

bx_masterdeskでは、よりラウドなマスターを作成することはできますが、私たちはこれをお勧めしません。しかし、クライアントが求める場合は、それを実現することができます。

プロのマスタリングエンジニアは、CDリリース、ラジオやストリーミング、ビデオに使用するために同じトラックの異なるマスターバージョンをいくつか用意することがあります。bx_masterdeskを使用すると、マスターのより大きく、よりダイナミックなバージョンを簡単に作成するための良いアイデアは、異なるDR値を内部のA/B/C/D/バンクに設定をコピーすることです。

この方法で、曲のプリセットを保存し、ボタンをクリックすることで様々なラウドネスバージョンを呼び出すことが可能です。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



1 ゲインリダクション

ゲインリダクション・メーターは、マスターの左右のチャンネルで発生するコンプレッション量を表示します。コンプレッサーミックス・ノブの近くに配置されていますが、ミックスコントロールではなく、ボリュームノブを使用してコンプレッション量をコントロールします。

2 ディエッサー・ゲインリダクション

ディエッサーメーターは、ディエッサーセクションでどのくらいの処理が行われているかを示します。

ソロLEDを使用すると、取り除いている部分を正確に確認でき、それに応じてディエッサーのゲインを調整することができます。

プリセット

2つと同じサウンドのミックスは無いので、あなたの音楽を聴くことなくプラグインでマスタリングをするためのプリセットを作ることは難しいと言えます。しかし、私たちの提案や、マスタリングの出発点としていくつかを作成し、bx_masterdeskを使ってどのようにミックスをマスタリングしていくかを示すことは可能です。

ミックスのレベルに基づいていくつかのプリセットでボリュームノブを調整し、ミックスに合わせる必要があるかもしれません。最善の方法は、ダイナミックレンジVUメーターをチェックし、適正なDR値に達するまでボリュームコントロールを調整することです（グリーンポイントを出発点として）。DR値とラウドネスのターゲットの詳細については、このマニュアルの残りの部分を確認してください。例えば、マニュアルの“1.ボリューム”を参照してください。



bx_masterdesk

プラグインマニュアル



トップツールバー

1 アンドウ / リドゥ

いつでもプラグインのコントロールに加えた変更を元に戻したり、やり直したりすることができます。アンドウ/リドゥは32ステップまで動作可能です。これにより、実験的な調整を行うことができます。調整が気に入らなければ、元に戻すだけです。

2 セッティング(A/B/C/D)

プラグインには4つの内部セッティング(A/B/C/D)があり、各プリセットに保存することができます。したがって1つのプリセットには最大で4種類の設定を保存することができます。

1つのセットアップ/プリセットでより多くの、または少ないコンプレッションやEQブーストのバリエーションを作成することが可能です。

DAWで設定をオートメーション化することができます。このようにすると、曲の様々なセクションでボーカルやドラムに異なるサウンドを適用することができます。A/B/C/Dセッティングをオートメーション化することでDAW内の複数のパラメーターを上書きすることなく個々の設定のノブを微調整することができます。

3 コピー / ペースト

同じサウンドのバリエーションを設定するには、コントロールを何度もダイヤルする必要はありません。セッティングAを気に入り、Bに同じサウンドでコンプレッションを少し少なめで使用したいとします。

- セッティングAを使用中にコピーを押してください。
- セッティングセクションの“B”を押してセッティングBに切り替えてください。
- ペーストを押すと、セッティングBはセッティングAと同じになります。
- セッティングBのコンプレッションを下げてください。

A & Bを切り替えることで、セッションの様々なセクションに最適なサウンドを設定したり、オートメーション化することができます。

4 M/S モニタリング(ステレオチャンネルのみ)

- **ソロ M:** プラグインで処理中のミッド(サム)シグナルをソロにします。
- **ソロ S:** プラグインで処理中のサイド(ディファレンス)シグナルをソロにします。
- **両方とも解除:** 標準のステレオ(L/R)出力。

Dirkからのヒント:

レコーディング、ミキシング、マスタリングのためのM/Sテクノロジーの詳細とビデオについては、当社のウェブサイトをご覧ください。





BRAINWORX

プラグイン、そして楽しむ！ - www.brainworx.audio